

第2回田村市立船引小学校運営協議会

日時：令和3年10月29日（金）18:00～19:40

場所：田村市立船引小学校 校長室

1 開会

2 学校運営委員長あいさつ

授業参観ができないなかったなかでの協議となる。学校だより等を通して行うことになるが話し合いをお願いしたい。

3 本校校長あいさつ

（コロナウイルスについては）夏休み中の感染者は見られたが、学年閉鎖や学校閉鎖をすることなく今現在を過ごすことができている。インフルエンザについてはこれから気を付けなければならない。児童は運動会を終え、次はマラソン大会に向けて頑張っているが、コロナ禍の影響なのか運動不足感が否めない。これから、これまでの学校運営について、また、赤石澤様の要望についても協議をしていきたい。

4 協議

（1）前期の学校運営（これまでの経緯等）について

校長：資料2Pからご覧になってほしい。

9月の授業参観が中止となってしまったので、12月の授業参観（運営競技委員のみ）にて授業については協議をしてほしい。

運動会については資料の13P。今年は教員の知恵を出し合い、1学年50分の持ち時間とし、それ以外は各教室で見れるようにLIVE中継をした。例年だと児童がいるはずのスペースを保護者の観覧席とすることができた。子どもたちにはなかなか好評であった。やってみて子どもたちの様子や校長の感覚としては、運動量を確保することができたと感じている。これまでの集団行動に重きを置いた運動会にしなかったことで逆によかったのではないかと思う。集団行動については、指導要領から削除されている。学校はこれまでの取組を大事にするということがあるので、これまで取り組んできている部分はあった。そう考えると入場行進は必須ではない。コロナを防いだという点からもこれからの運動会の基盤となると考えている。

A委員：運動会をできたことがよかった。天気も良かった。学校によっては保護者参観できない学校もあるのでよかった。入場行進の部分も、本来の運動技能の向上という面からも、これからの運動会の在り方として成果があったと思う。

B委員：昨年度は、6年生が最後ということもあり、鼓笛を参観するというのみであっ

たが、今年度は各家庭1名という制限はあったが、子どもたちにとっては親が見ているから頑張ろうというモチベーションは高かったと思うのでよかったと思う。次年度はまたコロナがどうなっているか不透明な部分はあるが、今年度の運動会を生かせればいい。

C 委員：これまでだと場所取りが印象的であった。どのくらいの面積が一家庭なのかなど大変感が見られた。その部分でも今年度はそのようなこともなく、もめ事が少なくなったのだと思う。今回のようにやっていただけると時間の余裕も場所の余裕もあり、駐車場の面からもよかったのではないか。近所からのクレームもこれまでは見られた。

B 委員：場所取りについては、以前は抽選でやっていた。見えない所で不正があるのではないかなど不満が見られ、ビデオを撮りながら行った経緯もある。その時には例年よりはクレームが少なかった。

C 委員：優先席の赤線はよかった。ゴール付近に人は集まっていたが。

A 委員：全校生集まるのは難しい。

C 委員：昼食の場所についても例年もめていた。

A 委員：平日というのは一つの手か。土日だと人が集まりすぎるか。

校長：土日だとせっかく行けるのに、という思いをもたせてしまう場合もある。昼食の問題も出てきてしまう。

D 委員：今年度の取組はとてもよかった。校舎内で待機している児童は何をしているのか気になっていたが、教室でL I V E中継を見ているという方法は素晴らしい。コロナ前に戻ることはもうないだろうと考えると、いいと思う。優先席に保護者が入った時も自分の子どもを見つけやすそうであった。いつもだと隙間から何とか、という様子であったが今年はそれがなかった。大規模校であるので、このような方法はとても良い。

C 委員：他の大規模校はどのようにやっているのか。

教頭：昼食の時間を省くという方法を取って分散して実施しているという学校もある。

C 委員：母親の昼食づくりの負担も減っていると思う。

D 委員：コロナだからということではなく、素晴らしいアイデアを先生方は考えてくれたと思う。

校長：今回の方法だと子どもたちは熱中症などの心配もない。子どもたちは待っている時間勉強もしているので不満が少しはあったかもしれないが。

(2) 意見交換

赤石澤様からの要望について

①通学路の安全確保について

校長：千葉のトラックの事故から、文科省からの勅命を受けての通学路の点検は終わっ

た。できるところは対策を、というがなかなか難しい。1か所気になっているのが旭通りのところは学童に行く児童が下学年であり、多い時には120名程度通るときがある。実際通った時にはやはり危ないなあと感じる。現在、2時半から3時半まで車の規制をかけてもらうように要望している。車で通る場合には許可証を受け取ってもらうようにする。そのような方たちは意識が高いので安心だと考えている。

D委員：やはり危ないなあと感じる。これまで、よく事故も起きないなあと思う。歩道橋を降りてからそのまま道路に行く子が以前は見られていた。最近は一度止まって礼をしている子が多い。

C委員：(学童の場所を)近い方が低学年にしたらいいのではないかと。

校長：施設の規模が違う。

D委員：わかくさは学童専門の先生が行っている。学童はシダックスがもととなっている。

校長：公民館は浸水区域の中に入ってしまったので、新設ができない。学校も同様である。改修はできるが。

C委員：新しい場所は難しいのか。

B委員：市長に尋ねたが、広い場所がなかなか見つからないそうだ。

C委員：(旭通は)道路を広げるのは難しいと思う。一方通行にすればいいのではないかと。

B委員：警察に相談できる。そのようにしている場所もある(くるまや呉服店～小沢)。そこに住んでいる人は少し遠回りになるが、嫌、という人はいないのではないかと。警察との協議になる。住民の人は大丈夫かなど心配な部分はあるが。

校長：例えば、学校運営協議会として要望書を提出するという手もある。

D委員：許可証を作らないと呼び止められる。警察は集中的に取り締まりを行ってくれている。注意をしてくれると思う。スピードを出してくる車もあるので危なかったが朝の規制が始まってからはそのような車も見られなくなり車の数が劇的に減った。

C委員：他地区の人は分からないで通ってしまったり標識を見なかったりするが。

D委員：でも車の数は本当に減った。

B委員：歩道橋を通って登校する児童が増えたので、旭通を通る児童は増えた。国道を渡らないので安心も増えた。

②PTAの役割

校長：やりたいという声は聞いたことはなかった。PTA役員が多いということは会長からも言われていた。役員を決めることは大変ということで、副会長は2人になる。

D委員：そうすると男女一人ずつか。

B委員：なかなか次の人が見つからず、大変であった。それぞれ、(PTA役員は)各方部で選出されている。昔の名残があった。以前は様々な行事があったので、お手伝いをしていただくことがあった。行事を見直して行って行事は減ったということもある

ので、人数は減らしてもよいかと思う。「やりたい」という人はこれまで聞いたことがない。

校長：授業参観後、役員選出で残ってくださる人が少ない。残る人は既にやったことがある人などだった。

B 委員：荷が重いのでやりたくないと言う人が多い。しかし、謝恩会や学年行事等なくなっているので負担は少なくなってる。

B 委員：日中話合いが大変という意見が多く、学年行事は反対の意見が多くやらない方向で様子見をしていたところ、コロナの影響もあり、現状やらないということになっている。

C 委員：PTA 役員はないといけないのか。なくてもいいならなくした方がいい。

B 委員：PTA の協力自体が少ない。

C 委員：協力が必要な時、呼びかけると言うことでも人は集まるのではないか。存続してもよいか、なくしてもよいか、保護者に聞いてみてもいい。

B 委員：学校と連携という意味でもあってもいいのではないかと思う。

校長：本部役員+学年委員程度でもいいのではないか。専門委員は協力できる方で募集。任意団体なので入らないという保護者もいるそうだ。縮小という方向はいいと思う。

B 委員：縛りを付けるとやらなくていいや、という人が増える。仕切る人がいれば動いてくれるのではないか。

校長：ベルマーク委員も協力を呼びかければできると思う。

D 委員：ベルマークがものすごく集まった時には、プールのお迎えなどの時に協力をしていたことがある。袋をもって帰ってもらって集計表に書いてもらうということをやったこともある。

B 委員：何点集まったら持って来て、と集計表と一緒に持って来てもらうのはどうか。行事に合わせて人数を募集するというスタイルもいいのでは。

C 委員：何人かは集まると思う。

B 委員：学年行事を減らしたときに役員の数は減らしている。行事のたびに募集するというスタイルでもいい。

C 委員：PTA 会長は6年の学級委員長の保護者が集まって決めるのはどうか。

B 委員：5年でやると顧問としてやるときに子どもがいる。6年だと子どもがいない。

校長：PTA 会長はPTA 連合会などの会議等にも出席する仕事がある。何らかの形で残っていないとそれはまずい。

B 委員：縮小の方向で考えていきたい。

③SDG s の視点からの給食の食品ロスについて

校長：残食の量は比較的少ない方。食育という観点からも指導はしている。家庭の食品

ロス調べという手もあるが、嫌がる家庭もあると考えられる。意見としてありますよ
いうことを機会を見て教育委員会に伝えるというくらいかと考えている。

C 委員：昔は残食を堆肥にして何かを育てていたが。

校長：衛生面からも残食は給食センターに戻すことになっている。

B 委員：給食にスポットを当てている意見であるが 17 の目標に視点を当てた教育活動は
推進して欲しい。残食は残っているが、少なくはなっている。

校長：メニューにもよるが。

D 委員：給食センターはとても工夫している。地産地消など。

C 委員：逆に足りていないということはないのか。

校長：1年から6年生までいるので、主菜の量が同じであり、足りないと感じたり多い
と感じたりすることはあると思う。

1年生の保護者の試食会がなかったが、できるようになった時には運営協議会の方
にも食べていただければと思う。

C 委員：子どもたちには残さないということを指導してほしい。

その他

A 委員：さつまいもの栽培の支援はどうか、ということ堀越地区（船引南小の近
く）の松や農園の代表の方から話が出ている。船引小は人数が多いので、あまり収
穫祭で焼き芋にして食べたりなど、イベントを開いたりできていないと思う。た
だ、移動には少し時間がかかってしまうことは難点。資料を持って来ている。市の
補助を受けて行っている事業になる。学校には金銭的な負担等は全くない。船引南
は取り組もうとしている。

校長：2年生の生活科にサツマイモを育てるカリキュラムがあるので、取り入れること
は可能である。検討していきたい。

B 委員：植える体験と収穫する体験以外はどうするのか。

A 委員：それは話し合い次第。

B 委員：田植えの時には最初から最後まで面倒を見てほしいということが以前あり、そ
れは少し難しいということで断ったことがある。

A 委員：そもそも、向こうは計画を立てて取り組もうとしているから、それを手伝うと
いうこと。田村の農業に関心をもってほしいという思いをもっていると感じた。大
規模校とのつながりも欲しいのだと思う。

教頭：次回以降については前回お知らせしたとおり。また近くなったら連絡をする。

5 閉会